

目次

- 西安・重慶ツアーのご案内
- 「中国経済研究会」からのご連絡
- 中国・上海ニュース 2009.1.18-2010.1.24
- 極東ロシア近況
- 深圳雑報 (2010年1月16日)
- 09年12月 : 暴動情報検証
- 【中国経済最新統計】(試行版)

大陸横断鉄道と三峡水運の中継点、西部大開発の中心都市 西安・重慶ツアーのご案内

開催日時 2010年3月22日(月)-27日(土)

日中友好経済懇話会が主催し、上海センター協力会、大阪能率協会(上海センター協力会法人会員)、北東アジア・アカデミック・フォーラムなどの後援による中国視察ツアーが今年も企画されています。今回のこのツアーは

- ① 連運港を起点とする大陸横断鉄道の中継点西安を中心とする西部の物流調査
- ② 三峡ダムによって大型船舶の通航が可能になったといわれる重慶の河川物流の利用状況の調査
- ③ 西部開発の主要拠点である 2 都市の活力を昨年、一昨年の中部視察都市のそれと比較する。
- ④ 長島精工、ダイキン工業、長安フォードマツダ工場の現地視察
- ⑤ 京都大学との交流協定を持つ西安交通大学との交流

という 5 つのテーマをもったもので、上海センター協力会の大森副会長が副団長のほか協力会会員の三統株式会社など多くの会員様のご協力を得て企画準備を進めています。具体的な日程は以下のとおりです。

3/22 火 CA 利用	関空から北京経由で西安入り。 西安交通大学のレクチャーを受ける	西安泊
3/23 水	長島精工、西安ダイキンを訪問 唐楽宮でディナーショー	西安泊
3/24 木	世界遺産始皇帝陵、陝西省歴史博物館などを視察後、国内線にて重慶に 移動	重慶泊
3/25 金	在重慶日本総領事館と物流企業を訪問 長安フォードマツダと物流企業を視察	重慶泊
3/26 土	河川物流の視察 重慶市内戦争遺跡と世界遺産大足石窟の視察	重慶泊
3/27 日	重慶-北京-関空で帰国	

予定しています旅行費用は、189,000 円(概算、2 人 1 室利用、1 人部屋追加料金 24,000 円)。ホテルは四つ星クラスです。ご希望の方は 2010 年 1 月 30 日までに以下までご連絡いただければ幸いです。

〒602-8026 京都市上京区新町丸太町上る春帯町 350 機関紙会館 2F 日中友好経済懇話会訪中団事務局 竹内章 FAX 075-254-2341

「中国経済研究会」からのご連絡

去る 1 月 19 日(火)に予定されていた中国経済研究会は、講師のヤルナゾフ先生の体調が直前になって急に悪くなったために中止せざるを得なくなりました。お越しいただいた方々には深くお詫び申し上げます。

中国・上海ニュース 1.18-1.24

ヘッドライン

- 中国国家统计局：各種統計を発表、09年の中国経済を振り返る
- 中国：09年の流動人口は約1億8000万人、大半が出稼ぎ農民
- 経済：中国地方政府の負債急増、08年GDPの2割に
- 格差：独占企業社員は勝ち組、年収は平均の10倍に
- 統計：09年の発電量が7%増
- 所得：都市部の可処分所得、09年は8.8%増
- 農業：中国東北部でトウモロコシ価格が高騰
- 上海万博：ホテルの宿泊価格が20%の急上昇へ
- 北京市：09年1人当たりGDPが1万ドル突破、中等先進国レベルに
- 新疆ウイグル自治区：60年に一度の大雪！広がる被害

ニュース詳細

■ 中国国家统计局：各種統計を発表、09年の中国経済を振り返る

中国国家统计局（www.stats.gov.cn）は21日、2009年の中国経済の運営状況を発表した。中国の2009年の国内総生産（GDP）成長率は8.7%となり、消費者物価指数（CPI）は0.7%の低下となった。これにより、中国政府の09年の目標である「保8（GDP成長率8%の確保）」は達成されたことになる。

09年の年間GDPは33兆5353億元（約452兆円、09年末レートで換算）で、実質伸び率は前年比で8.7%となり、08年を0.9ポイント下回った。四半期ごとのデータを見ると、第1四半期のGDP成長率は6.2%、第2四半期は7.9%、第3四半期は9.1%、第4四半期は10.7%となっている。

■ 中国：09年の流動人口は約1億8000万人、大半が出稼ぎ農民

中国網1月22日付によると、21日、国家统计局の馬建堂局長は記者会見で、09年の流動人口は約1億8000万人に達し、その大半は出稼ぎ農民だったと報告した。

流動人口とは、戸籍のある場所で生活をしていない人のこと。同局のサンプル調査によると、05年の流動人口は全人口の11.3%を占める1億4700万人だったが、09年には約1億8000万人にまで増加した。そのうちの大半を出稼ぎ農民が占め、昨年末時点で1億4900万人に上った。

■ 経済：中国地方政府の負債急増、08年GDPの2割に

中国広播網1月18日付によると、4兆元（約53兆円）規模の大型景気対策に呼応して地方でインフラ建設が進むなか、国家審計署はこのほど、地方政府の負債総額が6兆元に拡大したとする推計を発表した。08年GDPの約2割に相当し、うち5兆元が金融機関からの借入れという。

中国の景気対策は、中央政府が1兆1800億元の公共投資で刺激し、地方や民間から計4兆元の投資を呼び起こすもの。しかし、地方政府は財源が限られる一方、独自の債券発行ができないため、別に事業法人を設立して銀行融資を受けるといった手法が一般的。銀行側も地方政府直轄の事業法人を優良顧客とみて積極的に融資しており、債務の拡大を招いているとみられる。

■ 格差：独占企業社員は勝ち組、年収は平均の10倍に

中国新聞網1月20日付によると、世界銀行の統計から算出された中国のジニ係数は0.47であるが、収入に換算されない福祉などの問題もあり、実際の格差はジニ係数以上に広がっていると一部専門家は指摘している。

格差の一つが業種間の格差。証券、銀行、発電、保険、石油、鉄道、航空など独占企業の年収は平均の4~10倍という極めて高い数値を示している。大卒初任給で倍以上の差がつくこともあるという。格差是正のためには教育や医療などの公共サービスを充実させ、全国民に格差による不公平な待遇を与えないことが必要だと提言している。

■ 統計：09年の発電量が7%増

中国国家统计局（www.stats.gov.cn）1月21日付によると、09年通年の発電量は前年比7.0%増の3兆6510億キロワット時だった。12月単月では25.9%の3498億キロワット時だった。

■ 所得：都市部の可処分所得、09年は8.8%増

中国国家统计局（www.stats.gov.cn）1月21日付によると、09年通年の都市部住民1

人当たりの可処分所得が前年比8.8%増の1万7175元(約22万6284円)だった。価格要因を除いた実質ベースでは9.8%の伸び。1人当たりの総収入は平均1万8858元だった。

■ 農業：中国東北部でトウモロコシ価格が高騰

新京報1月21日付によると、農業関係者がこのほど、トウモロコシの価格が中国最大の産地である東北部で記録的な高値になっていることを明らかにした。吉林省はトン当たりの価格が前年同期比25%高の1720元。広東省でも値上り傾向が鮮明になっており、政府は備蓄分の放出による価格抑制を検討している。

トウモロコシ価格の高騰は、生産量の大幅な減少と飼料やでん粉加工業の需要回復などが原因。また、農村部の収入増を目的とした政策で、東北地区からのトウモロコシ調達を国有企業などに対し義務付けていることも背景にあるという。

■ 上海万博：ホテルの宿泊価格が20%の急上昇へ

武漢晩報1月21日付によると、旅行手配やホテルの予約業務などをネット上で展開する携程旅行網から、上海万博開催期間中は周辺ホテルの宿泊価格が平均20%近く値上がりする見込みであることがわかった。

関連部門のデータでは、上海万博の開催期間中、ホテルなど宿泊施設の利用者は1日平均50万人に上ると予想されている。現段階でもすでに、国際的に有名なホテルはオリジナル宿泊プランを打ち出しており、価格が8~19%上昇。5つ星ホテルの価格は平均1400元(約1万8800円)、4つ星ホテルは平均700元(約9400円)程度になっており、中クラスのホテルは平均11%以上値上がりしている。

■ 北京市：09年1人当たりGDPが1万ドル突破、中等先進国レベルに

中国新聞社1月21日付によると、09年の北京市の1人当たりGDPが1万ドルを突破したことが分かった。世界銀行の基準では1人当たりGDPが1万ドルを超えると中等先進国レベルとされている。

21日に開かれた報道会見で、北京市統計局の于秀琴副局長は北京市の1人当たりGDPが1万ドルを超えたことについて「北京市にとって象徴的な意味を持っている」とし、「北京市が五輪を成功させ、新たな発展段階に入ったことを意味している」と述べた。

■ 新疆ウイグル自治区：60年に一度の大雪！広がる被害

中国新聞網1月21日付によると、新疆ウイグル自治区北部を60年に一度といわれる規模の豪雪が襲っている。政府は被災地への野菜供給や医療チームの派遣などの対策を実施した。

新疆ウイグル自治区商務庁は1月15日から計2回、被災地に野菜を供給した。2回合計の供給量は760トンに達する。被災地の物価高騰を防ぐことが目的だ。また医療チーム10チームが結成され被災地を回っている。

極東ロシア近況

13. JAN. 10

中小企業家同友会上海倶楽部代表

上海センター外部研究員(協力会理事) 小島正憲

「デルス・ウザーラ」?... ウラジオストックの民俗博物館を訪ねたとき、玄関を入ったところに、ロシア軍人の大きな肖像画があった。私がそれをながめていたら、「小島さんは『デルス・ウザーラ』を見ましたか」と、通訳のロシア人が私に聞いてきた。私はかすかに、黒澤明監督の作品の中にそんなタイトルの映画があったことを思い出したが、口には出さなかった。その映画は黒澤作品にしては、当時(35年前)評判があまりよくなかったのを見ていなかったし、なによりもその肖像画と映画が、頭の中でまったく結びつかないからである。怪訝な顔をしている私に、通訳が肖像画を指しながら、「このアルセーニエフ大尉がああ映画の主人公の一人です」と説明し、「黒澤明監督は偉大な人ですね。素晴らしい映画を作ってくれました」と付け加えた。私はその言葉を聞いて日本人として「デルス・ウザーラ」を見逃していたことを恥ずかしく思った。

帰国後、すぐにレンタルビデオ店に借りに行った。ところが他の黒澤作品はたくさんあっても、「デルス・ウザーラ」だけはどこにも見当たらなかった。店員に聞いても「誰も借りないので、置いていない」という。その後大きな店を3軒探し回ったがどの店にも置いてなかったの、仕方なくネットで検索して購入し、正月休みに見てみた。「デルス・ウザーラ」とは、1900年初頭に極東ロシアを探検した帝政ロシアの軍人:アルセーニエフ大尉とそれを道案内した現地



の猟師:デルス・ウザーラの友情を描いた映画であった。舞台は極東ロシアを中心に展開されており、黒澤明監督が2年間に渡って美しい風景を撮影した作品であり、私は名作だと思った。

昨年12月下旬に、私は服装のロシア市場調査を兼ねて、極東ロシア地方の近況を見に行くことにしていた。またついでに宮崎正弘氏の「中国分裂 七つの理由」の中の極東ロシアに関する叙述の部分、自分の目で確かめるつもりだった。するとちょうどそのとき、朝日新聞に極東ロシア情報が、写真付で大きく掲載された(12/12 西村大輔記者)。

そこには「国境またぎ空き農場へ」との見出しで、中国人が極東ロシア地方へ約20万人溢れ出していると書いてあった。この現象については遊川氏も「強欲社会主義」の中で、「溢れ出る中国人パワー」として取り上げている。今回、私はこの状況も合わせて見てみることにした。

1. 綏芬河総合保税区

まず私は牡丹江へ飛び、牡丹江市の政府の人といっしょにマイクロバスで、ロシア国境に隣接する綏芬河総合保税区に行った。この保税区は4月に認可されたばかりということで、周囲の柵ができていて、インフラ整備はあまり進んでいなかった。保税区の主任から、保税区は中央の道路をはさんで細長く、面積は1.8平方キロであるという説明を受けた。さらに主任がこの保税区のいろいろな特典を解説してくれたが、まだ具体的な大型工場の誘致は決まっていない様子だった。

2. 綏芬河からバスでロシア側へ

次に綏芬河からバスでロシアへ入国した。中国側の出国手続きは簡単に済んだが、ロシア側の入国手続きに、約3時間かかり、閉口した。とにかくロシア人の買い物ツアー客つまり担ぎ屋さんが多く、しかも入国審査窓口が3か所しかなく、それに加えて要領の悪いロシア人係員が作業を滞らせていたからである。面白いことにロシアへの荷物の持ち込みは重量30kgまで無税という規則になっており、担ぎ屋さんたちが軽くて値段の高いものを運ぶので、大きくかさだかい荷物でバスが満杯になっていた。こうしたロシア人がこの税関を1日で2000人通過しているという。これでも減った方で、金融危機前は5000人を越えていたという。

3. パクロフカ

ロシアに入り、まずパクロフカにある俄羅斯華宇経済合作区内の黒竜江華宇工貿(集団)有限公司の事務所を訪ねた。そこで総経理からこの会社や合作区の状況を聞いた。この合作区は黒竜江省東寧とは山を挟んで反対側にあり、中国側の東寧税関から30kmで、1時間もあれば来ることができるという。私は綏芬河税関を通ってきたのでずいぶん遠く感じたが、この合作区と東寧とは指呼の間であり、東寧最大の企業である華宇工貿(集団)有限公司が、ここに進出しているのも頷けた。なお東寧にあるのは2級税関であり、外国人はそこを通過できないということであった。

それにしてもこの会社はロシアの領土内に広大な農場や工業団地を持っており、なにかロシア政府との間に特別な関係があるのかと思い、総経理にそれを聞いてみた。総経理はかすかに笑みを浮かべながら、「わが社のトップの奥さんはロシア人です。だからこの土地も奥さん名義です」と種明かしをしてくれた。それでもその農場や工場に中国人労働者が多数働いていると聞いていたので、さらにその点を突っ込んで聞いてみたところ、外国人労働者がロシアで働くには就労ビザが必要であるが、それは申請すれば交付されるという。またその人数は工場の規模や業種などによって細かく枠が設定されており、1年更新ビザ、毎年1回の申請で締め切りは3月1日などと説明してくれた。つまり申請さえすれば、意外に簡単に就労ビザが取れるような口ぶりだった。総経理が座をはずしたとき、側にいた事務担当者が私に、申請書類の書き方などがきわめて難しくなんども書き直させられるし、そのたびに袖の下も要るのでたいへんだとこぼした。

《雪に覆われた広大な農場》 →

まず私は農場に連れて行ってもらうことにした。総経理は「農地は一面の雪だから、行っても仕方がないですよ」と言いながら、30分ほど離れた場所へ案内してくれた。農地は2000ヘクタール以上あるという説明を受けたが、そこには雪景色以外なにもなく、それを確認することはできなかった。この農地では主に飼料用のとうもろこしを作っており、近くの農場で豚を1万頭、食肉用鶏を5万羽、卵用鶏を5万羽、飼育しているという。さっそくそこに連れていってもらったが、家畜伝染病予防のため畜舎には入れさせてもらえなかった。豚肉や鶏肉、たまごはロシア市場に出荷されているという。屋外では寒風吹きすさぶ中、30人ほどの中国人がとうもろこしの乾燥作業を行っていた。私はその姿をデジカメで撮っていたが、零下20度を下回る寒さに数分も耐え切れず、車の中に逃げ込んだ。農作業のできる季節には、中国から農民をさらに100人ほど連れてくるという。



車の中で、総経理に朝日新聞に載っていた「リャリチの農場」について聞いてみた。ちなみに12/12付けの朝日新聞の西村記事には、「ウスリースク近辺のリャリチ村に、東寧華信経済貿易という中国の会社の農場があり、約6千ヘクタール農地と約8千頭の養豚業を営んでおり、そこに150人の中国人労働者がいる。極東ロシアには約2000の

中国系農場が進出。耕作地は35万ヘクタールに達している」と書いてあった。私の問いに総経理は首を傾けながら、「リャリチという村はここから遠く、そこに大きな農場があるとは聞いたことがないし、東寧では私の会社が最大であるが、東寧華信という会社の名前は知らない」と答えた。さらに、「たしかに最近、極東ロシアでは韓国人経営の農場も増えてきたが、中国人も含めて外国人が経営する農場は、多くても100社を超えることはない」と言い切った。私もこの西村記事にある2000社はオーバーではないかと思う。もしここに2000社も外国人経営の農場が出現したら、まさに極東ロシアは外国人に占領されたような状況となり、そのようなことをロシア政府が看過するはずがないと思うからである。

《靴工場》 →

次に私は工業団地へ案内してもらった。俄羅斯華宇経済合作区内には、3箇所の工業団地があり、35ヘクタールの土地に1,000㎡を超える建物が10棟ほど建っており、現在も増築中。そこでは靴・家具などの工場が稼動しており、現在、中国人労働者が800人以上、ロシア人労働者が70人余り働いているという。その中の一軒の靴工場に入ってみた。生産ラインで働いているのは中国人ばかりだった。ロシア人を探したところ、最終の製品箱詰め場所でその姿を発見することができた。中国人工場長にロシア人の働きぶりを聞いてみると、「技術の必要な場所は任せられない。単純工程をピースペイでやらせるとよくがんばる。それでも終業時刻が来るとさっと帰ってしまう」と話してくれた。そのロシア人労働者の月給は4〜7万円だという。また「ここにいる中国人はほとんどが浙江省から来ており、月給は3000〜6000元(約4.5〜9万円。食費・寮費・医療費・本国往復旅費などは会社負担)である。この工場で作った靴は、ロシア国内市場で販売しており、関税がかからないので競争力があり、よく売れている。各地の市場に卸しているのだが現金決済なので、中国国内販売よりも、売上代金の回収が2か月早く、資金繰りが楽である」と語ってくれた。



私が2003年にウラジオストックに来て工場調査をしたときには、この地で韓国人の工場が十数社稼動していた。そのとき韓国人経営者たちは、口を揃えてロシア人の怠惰なことを言い募り、儲からないとぼしていた。その韓国人は数年前、ほとんど撤退してしまった。そこには関税の問題など、ロシア側の法律問題の煩わしさがあつたと聞いている。韓国人が撤退したあと、この地に上手に中国人が入り込み、「怠惰なロシア人問題」も、「煩わしい関税問題」もクリアして、現在では結構儲けているようである。

4. ハバロフスク

ウスリースクから夜行列車でハバロフスクへ移動した。夜明けに着いたハバロフスクは、予想外にモダンできれいな町だった。駅前のファーストフード店でハンバーガーを食べアメリカンコーヒーを飲んで、市内には中国製品が溢れかえっていた。それぞれの店の販売員はロシア人が多かった。建物の外にもずらりと店が並んでいた。その数はおおよそ500軒であった。私はこの零下20度近い戸外で、よく商売ができるものだと感心しながら、同時にコチコチに凍った道で滑って転ばないように気をつけながら店頭を見て回った。戸外店での販売人はほとんどが中国人であった。もちろん製品もまたほとんどが中国産であった。私は中国パワーに圧倒された。

《ハバロフスクの戸外の卸売り市場》 ↓

製品は結構高く、たとえばシンプルなダウンコートに、日本円に換算して2〜3万円ほどの値札が付いていた。まだ交渉の余地はあるとは言うものの、やはり高いと思った。そのときロシア人の通訳が「ロシアは世界一物価が高い」とつぶやいたので、「極東の一般のロシア人の月給は4〜6万円ほどだと聞いているが、なぜ物価が高いのか。こんなに高くは誰も買えないではないか」と聞いてみると、「ロシア人にはいろいろな副収入があるので」と彼は口を濁した。同行してくれていたロシア通の日本人が、そのやり取りを聞いて、「一般にロシア人は別荘を持っており、そこで週末を過ごし、そこにある小さな畑で野菜などを作っており、いわば自給自足している。また二つの職業を掛け持ちしている人も珍しくはない」と補足説明してくれた。私は「別荘」と聞いてなにか釈然としない気がしたが、その場ではそれについて質問しなかった。帰りの車中で彼が窓の外を指差して、「あれが別荘です」と教えてくれた。それは「別荘」などという代物ではなくて、小屋と呼ぶのがふさわしいようなみすばらしいものであった。それでもそれが延々と続く景色を見ると、物価高の社会でのロシア人の生活防衛手段が少しわかるような気がした。ただしモスクワ近辺のロシア人の平均月給は10万円に近づいているという。



その後、市内のスーパーや百貨店などを見て回ったが、そこら中にあまりにも中国製品が多いので、担ぎ屋さんだけではこの量を賄いきれないだろうと思い、「正規の輸入ルートはどこにあるのですか」と聞いてみると、アムール川の対岸に撫遠という1級税関があり、そこから輸入されるという。私はその地名を聞くのは始めてだったので、ロシア側からそこを遠望したいと思い、アムール川の岸辺まで連れて行ってもらった。川は完全凍結しており、歩いて中国側に行

けるような様子だったが、うっすらと降っていた雪にかすんで、対岸の様子はわからなかった。

ハバロフスクからユダヤ自治州のピロビジャンまではそんなに遠くはない。だからきっとこの地にもユダヤ人がいるに違いないと思い、「ハバロフスクにシナゴグはありますか」とロシア人通訳に聞いてみたら、やはりあるというので、今度はそこに案内してもらった。残念ながら門が閉ざされており中には入れなかったが、それはダビデの星を掲げた立派な建物であった。その威容から判断して、ハバロフスクにはまだ相当数のユダヤ人が住んでいると思った。

最後に日本人墓地を訪ねて、冥福を祈った。

《ハバのシナゴグ》→



5. ウラジオストック

再び夜行列車に乗り、ウラジオストックに戻った。夜行列車で往復で、2日間シャワーをしていなかったため、まずホテルにチェックインし、ひげを剃り、頭を洗い、身だしなみを整えてから、高級ブランドを扱うという百貨店の視察に向かった。その百貨店は5階建てで、1フロアには10店舗ほどが並んでいた。店にはたしかに中～高額のブランド商品が並んでいたが、どこか雑然とした感じであった。ZARA、H&M クラスのブランドのダウンコートで、5～8万円ほどの値札がついていた。百貨店は正札販売で値切ることができないので、この価格はかなり高いと感じた。最上階には、先日東京でオープンして話題となっていた床面がプラスチックのスケート場があり、子供たちが楽しそうに滑っていた。私はそれを見て、わざわざお金を払ってここでスケートをしなくても、外の道路はコチコチに凍っており、本物のアイススケートができるのにと不思議に思った。

《ウラジオの中国人小売店内》→

次に朝日新聞に載っていたスポルチープヌイ市場に行ってみた。そこはウラジオの台所とも呼ばれている場所で、大きな建物の中に中国人の営む小売店約1000社が集中していた。しかもその市場は現在も拡大中で、新築の建物が完成すればさらに500社が増えるという。ここにも戸外店舗がたくさんあり、ここでは生鮮食料品を売っていた。建物内で販売している商品は大半が軽工業製品で、そのほとんどが中国製であった。この市場の商品もそんなに安くはなかった。各店舗の販売員はほとんど中国人であり、これらの建物のオーナーもすべて中国人だという。この市場では、1店に1人の割合でロシア人の雇用が義務付けられているということだったが、ロシア人販売員の姿はほとんど見かけなかった。店頭を見回っていると、ある店で販売員がベトナム語の新聞を読んでいるのを見かけた。聞いてみるとベトナム戦争時にここに来てそのまま居残り、ロシア国籍を取得してここで働いているという。これも前記の規則をクリアする巧妙な一手段だと思った。とにかく私はここでも圧倒的な中国パワーを見せつけられた。



朝日新聞には、「市当局がこの地域の一部を中国に75年間貸すことを承諾したという情報が流れた。これは正式な決定ではなく、ウラジオストック経済発展戦略の検討案の一つであったようだが、ウラジオのロシア人たちを震撼させた」と書いてあった。この市場の中国人関係者にその話を聞いてみると、笑いながら「あれはうわさだよ。ロシア人がそんなことを許すはずがない。それでも昔からここに住んでいるロシア人たちは、心の中ではモスクワやチェチェンからマフィアが来るよりも、中国人の方がまだましだと思っているみたいだよ」と話してくれた。

ホテルへの帰路、ウラジオ駅付近で、がらすきの中古自動車倉庫を見た。数年前までは大きな倉庫が満杯で、その影響で陸揚げ作業も滞り、他の港の活用が真剣に取沙汰されていた。ところが昨年の中古車関税の大幅アップでこの事業がまったく採算が合わなくなり、輸入はぱったり止まってしまった。今や港では大型倉庫が無用の長物と化し、無残な姿をさらしていた。

「中国分裂 七つの理由」で宮崎正弘氏が書いているように、ウラジオ市内は建設ラッシュであった。港近くの道路上にはルースキー島へ向かう橋の橋脚がニョキト建っていた。この工事は地元のロシア企業が受注したものを、日本の石川島播磨が下請けしているという。市内のビルは中国系企業が下請けしているものがほとんどだという。

《ウラジオ市内に立つ橋脚》→

その日はいちだんと寒く、ルースキー島へは湾が荒れているという理由で、ナホトカへ道路が凍結しているという理由で結局行けず、宮崎正弘氏のレポートの確認はできなかった。ただしロシア人通訳が、「昔は、ウラジオは軍港、ナホトカは商業港と分けられており、両港が栄えていたが、ウラジオが民間に開放されてから、ナホトカが衰退しチャイナタウンなどもなくなってしまった」と話してくれた。



6. ウスリースク

再び、綏芬河国境を通過して中国に入国するために、ウスリースクに立ち寄った。この地に昨年9月、高麗民族博物館がオープンしたと聞いていたので、「なぜこの地に朝鮮族の博物館ができたのだろうか」と疑問を持ちながらそこに

行ってみた。こじんまりとした博物館であり、展示物も少なかったが、担当者の朝鮮族系ロシア人が懇切丁寧な解説をしてくれたので、疑問は解けた。彼の話によれば、第2次世界大戦時、ナホトカの北方にパルチザンスクという場所があり、そこを拠点にして多数の朝鮮族が抗日の戦いに参加していたという。朝鮮戦争には主に白頭山を根拠地にした金日成率いるパルチザンが活躍したので、戦後、ロシアのパルチザンスクを根拠地にしていた朝鮮族は、スターリンの命によって、強制的に中央アジアのウズベキスタンやカザフスタンに移住させられた。これは白頭山パルチザンとの権力争いに負けた結果とも考えられる。なお極東ロシアでは朝鮮族を高麗人と呼んでいるという。

《高麗民族博物館》 →

近年、中央アジアで生き残った彼らの子孫が、そこから帰って来て、ウスリースク近辺に2万人以上住み着くことになった。そこでこの地に高麗(朝鮮族)民族博物館を建て、民族の歴史を語り継ごうということになり、ロシア語と朝鮮語で書かれた高麗新聞を発行したり、建物前の庭で民族舞踊を教えたりしているという。なお、中国の地図で極東ロシアのパルチザンスクを探したところ、「遊撃隊城」という地名が記されていた。この地名はロシア語読みを漢字表記したものではなく、まさにピッタリの意識であり、その機転には感心した。



7. 帰路

帰路のバス内は中国人ばかりだったので、ほぼ1時間で、すべての手続きを済ませ中国に入国することができた。

8. 余記

- ①この旅行中、どこでもロシア人たちは中国人のことを CHINESE と呼ばずキタイと呼んでいた。また中国人たちはロシア人のことを RUSSIAN と呼ばずウォロス(俄羅斯)人と呼んでいた。ちなみに広辞苑には、「キタイとは昔の契丹国を語源としたロシア語の中国の称であり、ウォロスはロシアの異称である」と書かれている。キタイという呼称には、ロシア人たちが「極東ロシアに中国人には来て欲しくない」という心情と「中国人なしではやっていけない」という実情が複雑に絡み表現されているような気がした。またウォロスという呼称には、「極東ロシアの地はもともと中国のものだったのに」という中国人の恨みと嘆きの感情が乗り移っているような気がした。
- ②通常、極東ロシアという場合は、沿海州・ハバロフスク州・マガダン州・カムチャッカ・サハリンなどを含み、人口は700万人ほど(朝日新聞では646万人、ロシア人が1990年から2割減とレポート)であり、ハバロフスクは流動人口を含め80万人、ウラジオストックは80万人、ウスリースクは20万人。その中に中国人労働者や中国人販売員など商業従事者が20万人ほどいるという(朝日新聞も同様の中国人の数を載せている)。
- ③中国に戻った日のホテルの食堂で夕食に、立派な魚の頭が出た。美味しかったので、サービスにその名前を聞いてみたら「カラスガレーです」と言い、ついでに「ロシア沿海州で獲れ、胴体は切り身で日本、頭は中国に来ます」と教えてくれた。「尻尾はどこに行くんですか」と聞き返したら、「わかりませんが、多分地元民が食べるのでしょう」という返事だった。
- ④今回の極東ロシア旅行は、終始、零下15~25度の世界であった。寒さはさほど感じなかったが、とにかく滑って転ばないように歩くのがたいへんだった。小股でチョコチョコ歩くのと、たくさん服を着ているので体力をかなり消耗し、疲れた。最後にはとうとう転んで、尻をしたたかに打つおまけまでついた。やはり厳寒のロシアは訪れたくないと思った。

以上

深圳雑報 (2010年1月16日)

中小企業家同友会上海倶楽部代表
上海センター外部研究員(協力会理事) 小島正憲

1. 電気自動車、充電スタンド出現。

- ・マスコミ情報 : 昨年末、深圳市龍崗区大運会場館西側に電気自動車用の充電スタンドが建設され、急速充電器6台と充電コンセント6台が設置された。龍崗区中心城和諧路西側にも同様の充電スタンドが建設。すでに深圳市内の天光電科技などにも設置済みであり、あらたに充電スタンド2か所と充電コンセント134か所の運用が開始され、深圳市では充電インフラの充実が加速している。



- ・実情 : たしかに龍崗区大運会場館西側の充電スタンドは建設されていたが、急速充電器は1台のみで、あと5台分は土台のみが設置されているだけで、上に赤い布がかけられたままだった。また充電コンセント6台は片隅に一列に並べられているだけで、あまり実用的ではない感じがした。充電に来る電気自動車を見たいと思い、事務所で暇そうにしていたサービスに状況を聞いてみると、「まだ1台も充電に来ていません。ひとまずオープンしましたが、実際に忙しくなるのは半年ぐらい先のことでしょう」と話してくれた。せっかく設置されたのに

なぜ使用されていないのだろうかと思い、その理由を聞いてみると、「深圳市内にはまだ電気自動車は100台しか走っていません。ここは遠いのでわざわざここまで充電するために来る車はありません」と答え、さらに「急速充電器で充電するのに1.5時間、充電コンセントでは6時間ほどかかります。それでも300kmぐらいしか走れませんから、誰も来ないでしょう」と話してくれた。それを聞いて私は、おそらくこの充電スタンドは宣伝用だと思い、急速充電器の前で記念撮影をしてその場を後にした。



- 追加情報：深圳市は2012年までに電気自動車など非ガソリン車を2万4千台、15年までに10万台を普及させる方針。深圳市を拠点とする中国最大の電気自動車メーカー比亞迪(BYD)は、深圳市ぐるみで着々と地歩を固めているという。

2. 社保退出者、2万人が押し寄せる。

- マスコミ情報：昨年の12/31、深圳市内福田区の社会保険センターに、養老保険の退出手続きを行う出稼ぎ労働者約2万人が殺到し、付近の交通が麻痺するなど大混乱した。警官100人ほどが出動し整理に当たった。中国では「城鎮企業職工基本養老保険関係移管継続暫定弁法」が、2010年1月1日から実施されることになり、保険加入者は現在の勤務地から他の省に転出してもその地の所管社会保険センターで、保険が順調に移管継続手続きを行うことができることが決定された。しかしこの法律が執行されるのに伴い、転出・移管継続ではなく、退出希望つまり保険を脱退しようとする加入者は12/31までに退出することと規定されたため、深圳市内でいろいろな噂が飛び交い、退出者が大量に押し寄せたものと思われる。

- 実情：実際に大量に退出者が殺到したのは、市内福田区中心部の「社会保険基金管理局」ではなく、福田区八卦2路にある「社会保険個人服務中心」であった。そこは退出手続きを一手に引き受ける場所で、工業開発区の中にあつた。センター付近の道路には「今、慌てて保険を止めると老人になってから困るよ」とか、「あなたがどこで仕事をして、保険はどこでも継続できますよ」と書いた横断幕が掲げられていた。周辺の小売店の販売員などに聞いてみると、「12/31には大量の出稼ぎ労働者がここに集まってきたので、大混乱した。ただし騒動のようなものは何も起こらなかった。1月初めに入ってもまだ相当数の人が来ていたが、やっと最近少なくなった」と話してくれた。私とそのセンターを訪れたのは土曜日で、事務所は休みであったが、そこには10数人の労働者が来ていた。その中のある労働者は「5年前に四川省から来てここで働いているが、来年には郷里に帰るつもりだ。今回の法律では10年以上の勤務者でない移管手続きができなくなると聞いたので、退出しようと思ってやって来た」と話してくれた。「そんな規定はないよ。たとえ1か月でも郷里で継続できるよ」と私が話してやると、側にいたもう一人の労働者が「政府のことは信用ができないし、田舎では手続きが面倒だから、今止めて、現金をもらった方がよい」と大きな声で反論してきた。



3. 武装警察約100人出動。農民、土地代金の増額を求め抗議行動か。

- 他の暴動調査のために、タクシーで深圳市光明新区に入ったとき、交差点に20名ほどの警官がいた。通常の交通整理にしては異様に多かったの、誰か政府の幹部が視察にでも来るのではないかと思いながら、大通りをしばらく走った。するとその道路の突き当たりの場所で、100人ほどの武装警察が道路の両側と会社の前を封鎖していた。残念ながら私は、今まで長い間暴動調査を行ってきたが、その現場に立ち会ったことは少ない。だから私は「犬も歩けば棒に当たる」のことわざのように、今回は運がよかったと思って、さっそくタクシー降りその付近の住民に話を聞くことにした。
- 住民の話によれば、「この辺り一帯の土地を米国の「杜帮太陽能」という会社が地元政府から、高値で購入した。ところが数年前に農民がこの土地を地元政府に売り渡したのはその1/10ほどだった。したがってそれに不満な農民が、この土地に座り込むという噂が出たので、武装警察が警戒している。つまり武装警察が騒動を事前に防いでいる格好なのだ」という。
- 私はその衝突場面が見られるかと思い、1時間ほどその場に待機していたが、「どうも農民側が今日には来ないような様子だ」というので、あきらめてそこを後にした。
- なお、その日の前後数日間のマスコミ情報に詳しく目を通して見たが、この場所での騒動の記事は見当たらなかった。何事も起こらなかったのか、小さな事件なので報道されなかったのか、真偽のほどは結局わからなかった。



※以下の4. と5. は、未検証なので未確認情報として扱っていただきたい。ただし複数のメディアから同様の情報を

入手したので、まったくの誤報ではないと考えている。

4. 深圳市でウイグル人男性刺殺される。広州市ではネットでデマ情報の男性、拘束される。

- ・12/06夜、深圳市経済特区内にある新疆料理店で、お客の漢族7人とその店のウイグル人男性スタッフが、サービス態度をめぐって喧嘩となった。このスタッフが刺し殺され、漢族男性7人が警察に拘束された。警察は新疆ウイグル自治区への飛び火を警戒し、現場一帯を厳重に監視中。
- ・2010年1/07、広州市の3人の男性が、「新疆からでてきたウイグル人男性が、中山5路5月花広場付近で万引きをして広州市民や守衛に捕まり殴られ、騒動となった」とネット上に情報を流した。実際には、「12/22午後6時ごろ、ロシア国籍とカザフスタン国籍の2名の男性が、北京路付近の商店でベルトを1本盗んでいったので、店員が5月花広場まで追いかけて取り返そうとし喧嘩となり、現場近くの守衛2名もそれに加勢し、騒動となった。野次馬もかなり集まった模様」だった。ちょうどそのときそれを目撃した男性たちが、それをウイグル人だと思いネットに誤った情報を流した。広州市公安局はこの男性たちをただちに拘束した。

5. 児童の誘拐続発。

- ・深圳市南山区や福田区で、児童の誘拐・殺害事件が連続して発生している。今のところ日本人学校へ通う児童が被害にあったという報告はない。
- ・市当局の7月の局内会議で、「4月には52件の誘拐事件があり、第1四半期では月平均44件の誘拐事件が発生した」との報告があったという。
- ・市民の間に10月には20人近くの児童が誘拐されたという情報が広まったので、12/08、市当局は「10月に4件の児童誘拐事件が発生し、2人が殺害された」ことを認めた。
- ・誘拐は身代金目的の組織集団によって行われている模様。父兄は自分の手で学校への送迎を行うことで自衛しており、登下校時の学校周辺は大混雑となっている。

09年12月 : 暴動情報検証

中小企業家同友会上海倶楽部代表
上海センター外部研究員(協力会理事) 小島正憲

1. と2. に関しては検証済み。3. 以下は未検証、情報のみ。

暴動レベル基準は文末に掲示。

1. 12/16 安徽省阜陽市で、営業用三輪車の禁止に車夫が抗議。 暴動レベル0。

《12/16阜陽市人民政府前》

- ・マスコミ情報 : 12/16、阜陽市人民政府前で、営業用三輪車の市内運行禁止に反対する車夫など2000人が抗議。数百人の警察と衝突。抗議者20人が負傷。
- ・実情 : 阜陽市では近年、電動三輪車などが異常に増え、1万台を超えた模様。それにともない交通が随所で渋滞し、交通ルールを全く守らない三輪車による交通事故も増えたため、市政府は営業用の電動三輪車の市内運行禁止を決定した。12/16、抗議する車夫など1000人が市人民政府前に集結。そこに野次馬が1000人ほど集まり、交通が麻痺したため、警察200人ほどが整理のため出動。流血騒ぎはなかった模様。



《1/18 阜陽市人民政府前》 →

市の規定によればガソリン使用の三輪車は禁止対象外。ただし市内の主要6道路については運行禁止。荷運びのための三輪車は電動・ガソリンを問わず禁止の対象外。市政府は営業用電動三輪車を強制的に回収し、補償金として1台につき、2150元(奨励金を含む)支払った。電動三輪車の新車の市内での販売価格は3160元であり、回収されたものは古い三輪車が多く、車夫たちは大損にはならなかったようである。

《三輪車禁止の横断幕》 →

- ・私見 : 近年、中国では電動三輪車が、安価で手に入るため急増している。それらの電動三輪車を運転するのに免許は不要であり、彼らは交通ルールを守らず、はなはだしい場合には道路を逆走したり、赤信号でも平気で進行したりする。もちろん税金などは払っておらず、またアルバイト感覚でやっている者も多く、低価格で営業をするので、タクシーなどの営業を妨害してい



るのが現状である。たしかに地方では庶民のかかせない足となっている所もあるが、都市では営業運行を禁止している場所が多い。

※現在、中国国内で、電動バイクが1億2千万台使用されており、中国政府は1月1日から規制のための新基準を発表する予定であったが、国内自転車メーカーなどからの反発が多く、それを延期した。

2. 12/10 広東省深圳市光明新区公明鎮公明工業区で、強制立ち退きに反対する会社の従業員と警察が衝突。 **暴動レベル1。**

- ・マスコミ情報：12/10、茂港区裁判所は光明新区内の深圳太陽管道会社の土地及び建物の立ち退きを、警察70人で強制執行に踏み切った。工場内には労働者数十人がいて、レンガやガラス、花火弾、爆発物などを投げつけ抵抗したので、警察は100人ほどを増員して鎮圧した。衝突は20分ほど続き、労働者20人あまりが負傷した。この物件は1999年から係争中であったが、茂港裁判所は深圳太陽管道会社の土地及び建物を競売にかけ、深圳市秋碩投資発展有限公司に売却した。ところが深圳太陽管道会社から建物の一部を借りて操業していた会社の労働者たちがその決定に納得せず、騒動に発展した。



《深圳太陽管道会社の表門》

- ・実情：光明新区は深圳市の中でも、かなり辺鄙な場所であり、区の中心部にタクシーも三輪車もなかった。また飲食店や雑貨品の販売店で、この事件のことを聞いても誰も知らなかった。仕方がないので、違法営業のバイクの運転手10人ほどに聞きまわったところ、ようやく太陽管道会社の場所を知っているという運転手をみつけたが、それでも事件のことは知らないという。とにかくバイクの後ろに乗って、その場所に行ってみることにした。ところがそのバイクがさびれて人影もまばらな工場街を突っ走るので、どこに連れて行かれるのかと怖かった。15分ほど走って、公明鎮公明工業区という場所で降ろされた。運転手はここが太陽管道会社だというが、看板も何もなかったので信用できなかった。その工場の裏手に回ってみると、大きな煙突があり、そこにはわずかに太陽管道会社という文字の痕跡が残っていた。また裏門には20人ほどの警察が待機していたので、思い切ってその中の一人に、「ここで騒動がありましたか」と聞いてみると、「そうだ。ここで騒動があった。お前は新聞記者みたいだが、この辺りをウロウロせず早く帰った方がよい」と意外にやさしく答えてくれた。裏門は完全に閉鎖され、警察以外の人間はいないようだった。再度、表門に回りよく見てみると、表門はコンクリートで閉鎖されており、通用口には警察が4人警備に当たっていた。
- ・私見：今回の騒動は企業間の債権・債務問題に絡み、裁判所が下した判決とその強制執行に、元の会社から一部を借り受けて稼働していた工場に勤務していた労働者たちが騒動を起こすという事件であり、かなり複雑な様相を呈していた。今後は中国でも、このように権利関係が複雑に入り組んだ事件が増えてくるのではないかと思う。

3. 11/27 貴州省貴陽市雲岩鎮 土地開発商が雇った男たちと住民が乱闘。 **暴動レベル1。**

- ・貴陽市雲岩鎮で、11/27未明、土地開発不動産業者が雇った身元不明の男たち10名ほどが、就寝中の住民をバスに拉致しそこに押し込め、ブルドーザー2台で住居を破壊し始めた。30分ほどで26軒を壊した。駆けつけた警官が男たちを止めようとしたができなかったため、上部に連絡し応援を依頼した。一方、住民側も30名ほどが大きなドラム缶や横断幕で道路を封鎖し、男たちに対抗した。この影響で、現場の交通は朝7時から9時まで完全に麻痺した。多数の警官が現場に駆けつけたので、男たちは撤収して行った。
- ・行政から土地開発の許可を取った不動産開発業者に対して、従来からそこに住んでいる民衆が立ち退かなかったため、今回のトラブルとなった。
- ・不動産開発業者側の男ら20人、住民4人が警察に拘束。

4. 12/01 広西壮族自治区横県石塘鎮靈竹地区で、警察と村民が交通取り締まりをめぐる衝突。 **暴動レベル1。**

- ・横県石塘鎮靈竹地区で、12/01、交通警察がナンバープレートをつけていないオートバイを調査していたとき、村民がニセ警察と疑って、警察に身分証の提示を求めた。ところが警察はそれに応じず、村民を殴った。
- ・この強圧的な振る舞いに怒った村民が、警察を取り巻き、レンガなどを投げつけるなどして抗議。
- ・すぐに現地に応援の警察100名が駆けつけ、村民を鎮圧。村民側の負傷者26名、重体1名、30名以上が連行。

5. 12/05 四川省甘孜藏族自治州雅江県で、チベット人抗議。 **暴動レベル2。**

- ・12/05、100人以上のチベット人が2002年に逮捕、現在も投獄されているチベット族僧侶の釈放を求めて、県政府前でハンガーストライキ決行。100人以上が逮捕。7人が負傷、3人が治療中。
- ・600人以上のチベット人が応援に駆けつけたが、阻止された。
- ・当局は現地に軍隊を駐留させ、雅江県に戒厳令を敷いた。現地の商業活動は停止、主要道路は閉鎖。

6. 12/16 山東省煙台市で、約300人の退役軍人が抗議。 暴動レベル0。

- ・12/16、煙台市で約300人の退役軍人が、待遇の改善を求めて市政府の陳情受付事務所前に集合し抗議した。
- ・数百人の警察が包囲する中、市政府の人事副局長が善処を約束したため、解散。
- ・退役軍人らは、退役後も、次の職場で現役時代と同等の待遇を約束されていたにもかかわらず、現状はかなり劣るので、その改善を要求。

7. 12/28 天津市で電動3輪車の車夫が鉄道線路上で抗議。 暴動レベル1。

- ・天津市で、12/28、電動3輪車の車夫が市政府の営業禁止命令に抗議した。車夫のうちの数人が鉄道線路内に入り込み、抗議活動。
- ・北京行きの長距離列車に轢かれ、4人が死亡、多数が負傷。
- ・当局は鉄道の正常運行を妨害したとの理由で、車夫らを逮捕。

8. 12/31 広東省懐集県詩洞鎮で、土葬墓をめぐる村民と警察衝突。 暴動レベル1。

- ・懐集県詩洞鎮で、12/31、土葬を禁じている政府の方針に従わない村民に対して、警察が土葬の墓を掘り起こして強制的に火葬にしようとした。
- ・これに村民が抗議。警察は村民を銃で威嚇し、電気棒で殴打した。数百名の武装警察も加わり、催涙弾を放つなどして村民側を制圧。20人余りの村民が負傷。3人が意識不明の重体。
- ・村民はメディアなどに訴えようとしたが、当局が村周辺を封鎖。記者などは立ち入り禁止となっているという。

《私の暴動評価基準》

暴動レベル0： 抗議行動のみ 破壊なし

暴動レベル1： 破壊活動を含む抗議行動 100人以下(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル2： 破壊活動を含む抗議行動 100人以上(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル3： 破壊活動を含む抗議行動 一般商店への略奪暴行を含む

暴動レベル4： 偶発的殺人を伴った破壊活動

暴動レベル5： テロなど計画的殺人および大量破壊活動

以上

中国経済最新統計】(試行版)

上海センターは、協力会会員を始めとする読者の皆様方へのサービスを充実する一環として、激動する中国経済に関する最新の統計情報を毎週お届けすることにしましたが、今後必要に応じて項目や表示方法などを見直す可能性がありますので、当面、試行版として提供し、引用を差し控えるようよろしくお願いいたします。 編集者より

	① 実質 GDP 増加率 (%)	② 工業付 加価値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億\$)	⑦ 輸出 増加率 (%)	⑧ 輸入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
1月			21.2	7.1		194	26.5	27.6	▲13.4	109.8	18.9	16.7
2月		(15.4)	19.1	8.7	(24.3)	82	6.3	35.6	▲38.0	38.3	17.4	15.7
3月	10.6	17.8	21.5	8.3	27.3	131	30.3	24.9	▲28.1	39.6	16.2	14.8
4月		15.7	22.0	8.5	25.4	164	21.8	26.8	▲16.7	52.7	16.9	14.7
5月		16.0	21.6	7.7	25.4	198	28.2	40.7	▲11.0	38.0	18.0	14.9
6月	10.4	16.0	23.0	7.1	29.5	207	17.2	31.4	▲27.2	14.6	17.3	14.1
7月		14.7	23.3	6.3	29.2	252	26.7	33.7	▲22.2	38.5	16.3	14.6
8月		12.8	23.2	4.9	28.1	289	21.0	23.0	▲39.5	39.7	15.9	14.3
9月	9.9	11.4	23.2	4.6	29.0	294	21.4	21.2	▲40.3	26.0	15.2	14.5
10月		8.2	22.0	4.0	24.4	353	19.0	15.4	▲26.1	▲0.8	15.0	14.6
11月		5.4	20.8	2.4	23.8	402	▲2.2	▲18.0	▲38.3	▲36.5	14.7	13.2
12月	9.0	5.7	19.0	1.2	22.3	390	▲2.8	▲21.3	▲25.8	▲5.7	17.8	15.9
2009年												
1月				1.0		391	▲17.5	▲43.1	▲48.7	▲32.7	18.7	18.6
2月		(3.8)	(15.2)	▲1.6	(26.5)	48	▲25.7	▲24.1	▲13.0	▲15.8	20.5	24.2

3月	6.1	8.3	14.7	▲1.2	30.3	186	▲17.1	▲25.1	▲30.4	▲9.5	25.5	29.8
4月		7.3	14.8	▲1.5	30.5	131	▲22.6	▲23.0	▲33.6	▲20.0	25.9	27.1
5月		8.9	15.2	▲1.4	(32.9)	134	▲22.4	▲25.2	▲32.0	▲17.8	25.7	28.0
6月	7.9	10.7	15.0	▲1.7	35.3	83	▲21.4	▲13.2	▲3.8	▲6.8	28.5	31.9
7月		10.8	15.2	▲1.8	(32.9)	106	▲23.0	▲14.9	▲21.4	▲35.7	28.4	38.6
8月		12.3	15.4	▲1.2	(33.0)	157	▲23.4	▲17.0	▲2.05	7.0	28.5	31.6
9月	8.9	13.9	15.5	▲0.8	(33.4)	129	▲15.2	▲3.5	10.6	18.9	29.3	31.7
10月		16.1	16.2	▲0.5	(33.1)	240	▲13.8	▲6.4	▲6.2	5.7	29.5	31.7
11月		19.2	15.8	0.6	(32.1)	191	▲1.2	26.7	10.0	32.0	29.6	34.8
12月	10.7	18.5	17.5	1.9	(24.1)	184	17.7	55.9	9.7	-44.6	27.6	31.7

- 注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、()内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。